

順位	氏名（議席）	発言の要旨
2	吉川 隆之（18）	<p>1. 須津千人塚古墳をはじめとした本市歴史資源の保存・活用及び受入れ環境整備について</p> <p>近年の市指定史跡・須津千人塚古墳の発掘調査において、先日、6世紀後半から7世紀前半頃の朝鮮半島の百済にルーツを持つ、極めて装飾性の高い金銅製帯金具が発見された。この成果は既に海外メディアからも大きな注目を集めており、須津千人塚古墳や国指定史跡浅間古墳を含む須津古墳群の歴史的価値を国内外へ発信する絶好の契機となっている。</p> <p>しかし、須津千人塚古墳の現地整備が進む一方で、今年度から調査を開始する予定の浅間古墳を含めて、来訪者を受け入れるためのインフラや案内機能には多くの課題が残されている。本市の観光をこれまでの通過型観光から脱却させ、地域に眠る歴史資源を観光振興、地域活性化、郷土教育へ面的に生かすためには、国内外からの来訪者を視野に入れた戦略的な受入れ環境の整備が不可欠である。</p> <p>そこで、今後の保存・活用の方向性や具体的な受入れ環境整備の方針について、文化財担当部局のみならず、都市計画・道路整備・観光担当部局も含めた全庁的な見地から以下質問する。</p> <p>(1) 須津千人塚古墳の歴史的価値と地域ブランド化について</p> <p>百済にルーツを持つ金銅製帯金具が出土した須津千人塚古墳の極めて高い歴史的価値を、富士市の新たな魅力を形成する地域ブランドとしてどのように位置づけ、シティプロモーションに生かしていくか。</p> <p>(2) 多言語化等による情報発信と市民協働による受入れ体制の構築について</p> <p>海外メディアからの注目や今後のインバウンドを見据えた現地案内看板の多言語化や、QRコードやAR等のデジタル技術を活用した情報発信について、どのように取り組むか。</p> <p>また、専門的な解説がなければその真価や魅力が伝わりにくい歴史資源の特性を踏まえ、市民の地域への愛着を育みつつ、来訪者の満足度を向上させるための地域住民やボランティアと協働する体制の構築について、市の見解を伺う。</p> <p>(3) 浅間古墳へのアクセスにおける安全確保と将来的な課題整理について</p> <p>今年度から本格的な調査が始まる国指定史跡浅間古墳への来訪者の安全確保と利便性向上に向けて、現時点で案内標識（案内サイン）の適正配置などの計画はあるか。</p> <p>また、周辺の狭隘道路や駐車スペース不足などの来訪者の安全確保における課題について、今後の本格的な整備に向けて、現在、文化財担当部局を中心にどのように整理しているか。</p>